

エコハウスに住む人たちからのことば

この「家」にして よかった。

2
vol.

会澤健二 著

エコハウス、高断熱住宅……
呼びかたは色々ですが
これが住宅の本来の姿。
省エネで快適な暮らしを手に入れた
体験者の声を聴いてください。

第36話

我が家の玄関はドラえもんのごとくでもドア

開ければ春

山形県酒田市



山形県酒田市で地酒専門店を営む高橋修一さん（45歳）は、カメラや車、電気製品などいわずにメカに強い。リビングには本格的なボルシエ等のミニチュアカーも置かれている。お風呂でテレビを見たり外の気温が室内で見て取れる機器を設置したり、システムキッチンを暮らしをしている。

そんな高橋さんが選びを選んで建てたQ1.0住宅が2014年の春完成した。建築会社は、これも選びを選んで地元のコスモホーム（酒田市 柿崎圭介社長）に依頼した。選びに選んだ経緯が面白いので読者の皆さんにその顛末を紹介する。

我が家は要塞

高橋邸は厚い断熱材で覆われている。断熱材には、高性能グラスウールが使われていて、壁は内外で210mm、屋根は300mmの厚さがある。これらは現行基準の最高ランクのさらにその上を行く厚さだ。窓はしっかりとした断熱サッシ（YKKAPW330）にガードされ、住宅全体の断熱性能は省エネ基準の2倍以上の高性能で、暖房にかかるエネルギーは国の基準の3分の1にまで削減という優れた住宅に仕上がっている。室内は暖房換気がシステムキッチンに設備され、夏冬とも住み心地抜群であるという。高橋さん夫妻の表情からもそれがうかがえる。

2016年1月末、2度目の冬を迎えた高橋邸を、施工したコスモホームの柿崎社長と共に訪問した。ニコニコと笑顔で迎えてくれた高橋さんは「いかがですか、住み心地は」という私の問いに「すごいですよこの家は。雨風は勿論どんな寒さに

も暑さにもびくともしないんです」そう答えてくれた。私はすかさず「そんな家を、メカに強い人が何かにたとえたら何になりますか？」と聞いた。すると、少し間をおいてきた答えは「要塞…そう、要塞ですね」だった。

私はそれを聞いて頭にひらめきが走った。さすが機械をいじる人だ。長年色々な場面に出会ってきたが、要塞のたとえは初めて聞く。長い間、探していたものに出会ったような感覚になった。要塞という言葉であらためて辞書を引くと「外敵からの攻撃を防御するために建造する堅固な建造物」と書かれている（広辞苑）。まさにその通りであろうと私も思った。

酒田鶴岡のある山形県庄内地方は、冬の日本海から吹き付ける風が半端でなく強い。コンクリート造のビジネスホテルに泊まっても夜中、風の音で目が覚める事がある。内陸のように冷えずとも0℃前後の気温に風が吹くと体感温度は寒い。酒田の人が口をそろえて寒いというのはそういう理由もある。ある人は、冬の暖房時、風が家の中を吹き抜けて、まるで野原でたき火をしているようだと言っていた。要塞というのが実によくわかる。

極寒ロード

高橋さんの話す言葉は歯切れよく実に新鮮だ。「実は極寒ロードというのがあるんですよ」と、今度は極寒ロードという初めて聞く言葉が出た。

今となると懐かしい気がすると前置きして、笑いながら「家の中の寒い道」をこ



メカに強くメカが好きの高橋さんは室内から外の温度を見られる計器を設置している



冬の山形県庄内地方は、家の中に風が吹き抜けるくらい日本海からの強い風が吹く

う話してくれた。以前の家は、台所の向こうが戸一枚で脱衣室になっていて、さらに戸一枚を隔ててお風呂があった。まず台所が寒かった。奥さんの話によれば立っているのもいやになる位、足下からじんじん冷えてきた。お風呂に入るとき、まずその寒い台所を通って戸を開けます。するとまず一回目の冷や、外と同じくらい寒いので、ささあつと服を脱いでお風呂の戸を開けると、暖かいはずの浴室は風がスーッとして裸の肌さらに寒い。急いで風呂に入るのですが「会澤さん、そうしてお風呂に入ったら暖かいと思うでしょう。それが違うんです。そういう家は入っている内に寒くなるんですよ」「入っている内に寒くなってしまふなんてわかりますか？ ゆっくりお風呂に浸かるなんて寒い家ではできないんですよ」言われてみればわかる。露天風呂でも寒いと長く入ってられない。「こうして、決死の思いでお風呂に行くのですが、行きも帰りも、台所から浴室への道は我が家の極寒ロードでした」そう言ってまた笑った。

「それにしても以前の家はひどかった。玄関の建て付けが悪く、風の強い日はヒューヒュー音を立てて入ってきました。風だけじゃないんです、玄関の中に雪が積もるんです」子供も大きくなって、さすがに家を何とかしましょうと言いだしたのは奥さんで、高橋さんも真剣に考え始めたのだった。

住宅展示場訪問く地元工務店・高断熱住宅との出会い

そんな経験をしての家づくりだったから、ここに至るまでさぞかし勉強したのだ

ろうと読者は思うかもしれない。ところが、意外や意外、実はそのときはまだ高断熱住宅を知らなかったというのだから世の中の結末というのは面白い。まず住宅展示場へ行って最初は安いことで名が売れているTホームに入った。ここでは驚きの連続だった。テーブルに着くなり高橋さんは自分の生年月日から家族構成を書かされた。話を聞くと言うより聞かれることの方が多かったという。色々なやりとりをしていると、今度は神主さんが出てきて、あなたは年回りからいうとすぐ建てた方がいいと言っているのか。そんなことは考えてもいなかった。そんなこんななのやりとりをして展示場を後にした。その後一週間位して、「あなたへのおすすめプランはこれです」と図面と見積書が送られて、契約を迫られたという。

内心では、地元の工務店より大手の名のある住宅会社の方がいいと思っていた高橋さん夫妻だったが、住宅展示場とはこんなモノかと展示場行きはあきらめて、今度はウェブで検索することにした。そこで、地元のコスモホームが目にとまったのだという。住宅のデザインがイメージと合ったのだ。そしてここで初めて断熱住宅を知ることになった。

この頃のコスモホームのホームページには高断熱が大きな差別化としてかなり細かく記述されていた。中でも、年間の暖房エネルギー消費量、暖房熱源に何を使うか、環境を意識し、省エネで快適な住まいをつくる会社の方針が、延々縷々述べられていた。そこには柿崎社長の思いがかなり熱く語られていて、高橋さん夫妻はそれを全部、繰り返し読んだという。そうして初めて暖かい家、快適、省エネ、全室暖房とか、



ここでも厚い断熱。壁は内外とも高性能グラスウール105mm合計210mm



高橋さんの「どこでもドア」。ドアを開ければそこは春。温度計がそれを示す

家づくりを知り、コスモホームと面談することになった。

ある事件、土壇場で契約をとどまった理由

年間どの位の灯油が何リットルで暖かい暮らしができるか、なぜ高断熱が必要か、そんな話を、計算を交えて聞くことができた。こうして計画が進んでプランも価格もほぼ決まった。いざ契約というときに、思わぬ「待て」が入った。高橋さんの親から、ストップがかかったのだ。「高断熱住宅とかいうものに浮かれていないか」そんな内容だったという。親心である。高橋さんは、言われてみればそうかもしれない、そう思い直して、事実上いったん白紙に戻したのだった(驚いたのはコスモホームだったが、ここは信じて待つことにしたとこのときのことを柿崎社長は話す)。

住宅展示場巡りから得たもの

それからの高橋夫妻は再び住宅展示場回りを始めた。大手のSハウスはじめローコストを謳う住宅会社など数社を回り断熱性能、省エネ、暖房費などを聞いて回った。そんな断熱性能は酒田では必要ないという会社もあれば、我が社は高断熱ですと法外な価格を言う会社もあった。概して、断熱には不熱心で、ましてや年間の暖房エネルギーをいうような会社はなく、断熱は重視していないと思えた。

いろいろな話を聞いて、結局、コスモホームの言うことに帰着することがわかってあらためてコスモホームで建築することを決めたのだった。契約同然まで進んで話を中断したことで回り道はしたが、価格や性能に、納得の行く契約ができた。事実、コスモホームでは断熱性能や省エネ性能をQPEX(新住協発行)というプログラムを使って受注する全棟の計算結果表(右頁下表)を施主に提示する。酒田に限らず、住宅展示場に並ぶ住宅会社にそういう性能を数値で表せるような会社はほとんど無い。論理的なものごとを進める高橋さんが、コスモホームに帰着したとこのころはそういうことだったのだ。

快適さを求める設計

高橋邸は壁の外側にも105mmの断熱材を加える事になった。壁は合計210mmの断熱になる。サッシは樹脂サッシの高性能。ペアガラスという重装備で建築された。その結果が「要塞」になったのである。

これが、関東や仙台のように冬の日射が多い太平洋側の地域ならもう少し軽装備で日射を取り入れる設計もできるのだが、庄内地方の冬は日射が期待できないので、断熱を優先した設計になっている。その狙いは当たって、日本海側独特の曇天続きの重々しい冬でも室内は快適で寒さ知らず、その上、以前より遙かに省エネという理想的な家ができた。高橋夫妻は大いに満足している。

一番よくないこと

妻の由紀さんに「何が一番よかったと書いていますか」と聞いてみた。「勿論、ど

断熱 開口部 換気 仕様書

天井	高性能グラスウール	300mm
外壁	充填部	高性能グラスウール
	付加部	高性能グラスウール
基礎	押出法ポリスチレンフォーム 3種	200mm
開口部	樹脂サッシ+ArLow-Eペアガラス	
換気	熱交換換気 80%効率 0.3回	

断熱性能及び年間暖房エネルギー消費量 ■建設地 酒田市

Q値	熱損失係数	1.12W/m ² K
U値	外皮平均熱貫流率	0.39W/m ² K
暖房エネルギー年間消費量	電気(効率1.0)	2906kWh
	灯油(効率0.85)	332ℓ

年間暖冷房用消費エネルギー	暖房		次世代基準120㎡モデルプラン エネルギー消費量	
	住宅全体	1㎡当たり	暖房エネルギー	
熱負荷[kWh]	2,906	22.5	電気	70.5 [kWh/㎡]
灯油消費量[%]	332	2.6	灯油	8.1 [%/㎡]
電気消費量[kWh] (COP=1.0の場合)	2,906	22.5	都市ガス	6.9 [㎡/㎡]
CO ₂ 発生量[kg]	875	6.8	LPガス	5.9 [kg/㎡]
熱負荷[kWh]	2,906	22.5	冷房エネルギー	
灯油消費量[%]	332	2.6	全期間	15.8 [kWh/㎡]
電気消費量[kWh] (COP=1.0の場合)	2,906	22.5	必須期間	11.5 [kWh/㎡]
CO ₂ 発生量[kg]	875	6.8		

次世代省エネ基準比30%(70%削減)の省エネ住宅になっている

暮らしの感想
2017の冬

この冬は(も)たいへん快適に過ごしております。我が家のドアは「どこでもドア」です。ドラえもんのごとくでもドアは、空間を捻じ曲げて目的の場所と今の場所をつなぐ装置で、のび太君の部屋がいきなりハワイに直結されたりするシーンがあります。うちの玄関のドアの場合は、離れたところにつながるわけではありませんが(笑)まるで春の家の中と冬の外気をつなげているようなそれほどの違いです。寒がりな妻のため、室内の温度は21℃にしていますが、温度差が全く無いため、お風呂は快適、ガレージ以外は全て暖かい環境です。高気密、高断熱は身体に悪いとが窒息しそうという話を聞くこともありませんが、全くそんなことはなく、うちは逆に風邪をひかなくなりました。というところで、本当に「この家にしてよかった」と思っています。

こにいても寒くないのが一番うれしいのですが、台所仕事をしているときでも、部屋全部が見渡せて、家族みんなと一緒にいる感覚が楽しめるところがこの家にしてよかった」と話してくれた。真冬でも寒くないから家族みんなが一つの部屋でのびのび暮らしていられるのだ。主婦として、妻として、母として家庭生活に充実感があるのだろう。

今では遠い昔の出来事

極寒ロードがあったのはたった2年前、本当に快適な暮らしができるようになってからそれが遠い昔の出来事のように思えると高橋さんがしみじみ言う。

木川屋という山形の地酒だけを扱う高橋さんのお店は、今、全国からネットで注文が来るといふ繁盛ぶり。お客さんには高橋さん夫妻のさわやかな笑顔も魅力になっていると思う。その笑顔の背景には暖かい家、暖かい暮らしがあつて、その家づくりにはこちらというドラマがあつたことも知って欲しい。読者の皆さんが家をつくるときも高橋さんと同じようないい家をつくって欲しいと思うから。

施工者データ

会社名 代表者	コスモホーム(株) 柿崎 圭介
所在地	山形県酒田市下安町18-15
電話・FAX	TEL.0234-26-9505 FAX.0234-26-9506
Mail	info@cosmohome-inc.jp
ホームページ	http://cosmohome-inc.jp/